

# 愛媛県外に住む松山市出身者の Uターン意向調査

報告書



## 《 目 次 》

I. 調査の概要 .....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査対象.....	1
3. 調査方法.....	1
4. 調査時期.....	1
II. 調査結果.....	2
1. 回答者の属性.....	2
(1) 性別.....	2
(2) 年齢.....	2
(3) 職業.....	3
(4) 現在の居住地 .....	3
(5) 現在の家族構成 (Q 1) .....	4
(6) 同居の子ども (Q 2) .....	4
(7) 親・兄弟姉妹の居住地 (Q 3) .....	5
2. 松山市 (愛媛県) からの転居について.....	6
(1) 松山市での居住年数 (Q 4) .....	6
(2) 愛媛県外への転居時の年齢 (Q 4) .....	6
(3) 最後に愛媛県外に転居したきっかけ (Q 5) .....	7
(4) 「進学」の際に愛媛県外に転居した理由 (Q 6) .....	8
(5) 「就職・転職」の際に愛媛県外に転居した理由 (Q 7) .....	9
(6) 松山市への来訪頻度 (Q 8) .....	10
3. 松山市へのUターン意向について.....	11
(1) 松山市にUターンする場合のきっかけ (Q 9) .....	11
(2) Uターンする場合に不安なこと (Q10) .....	12
(3) 松山市へのUターン意向 (Q11) .....	15
(4) 松山市へのUターンを希望する理由 (Q12) .....	17
(5) Uターンを考える際に必要な情報 (Q13) .....	19
(6) Uターンする際にあれば良いサポート (Q14) .....	22
4. 松山市への移住を促進するために必要なこと (Q15) .....	25



# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

愛媛県外在住の松山市出身者の、Uターンに関する希望や障害等を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

## 2. 調査対象

東京圏・関西圏に居住する20歳以上の松山市出身者約100人ずつ（合計約200人）。

### ■地域の範囲

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

関西圏：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

## 3. 調査方法

インターネット調査会社が保有するモニターから、上記の条件に該当する方を抽出し、Web上でアンケート調査を実施した。

## 4. 調査時期

平成27年6月24日（水）～6月29日（月）

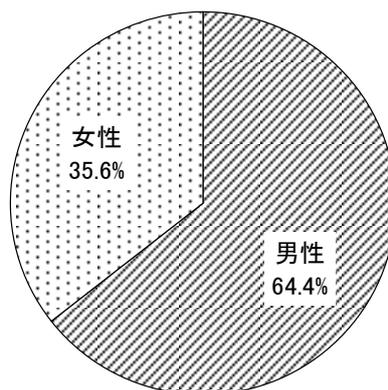
## II. 調査結果

### 1. 回答者の属性

#### (1) 性別

性別は「男性」64.4%、「女性」35.6%となっており、男性の回答者の方が多い。

図表 II-1 性別

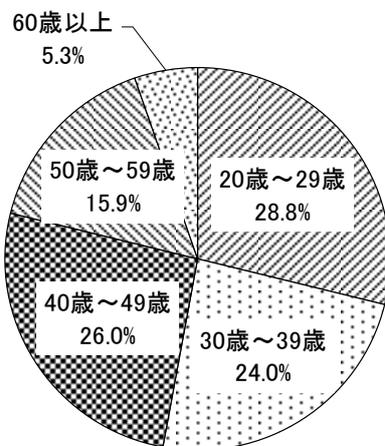


(n=208)

#### (2) 年齢

年齢構成は「20歳～29歳」が28.8%で最も多く、次いで「40歳～49歳」が26.0%、「30歳～39歳」が24.0%となっている。

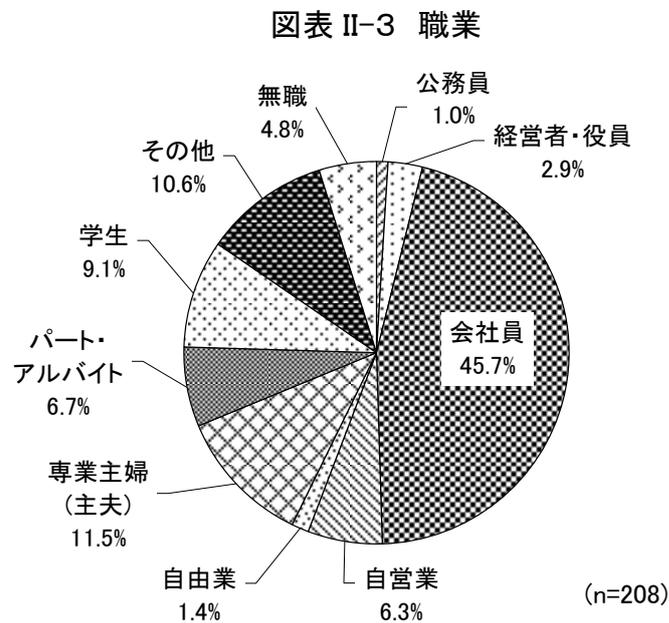
図表 II-2 年齢



(n=208)

### (3) 職業

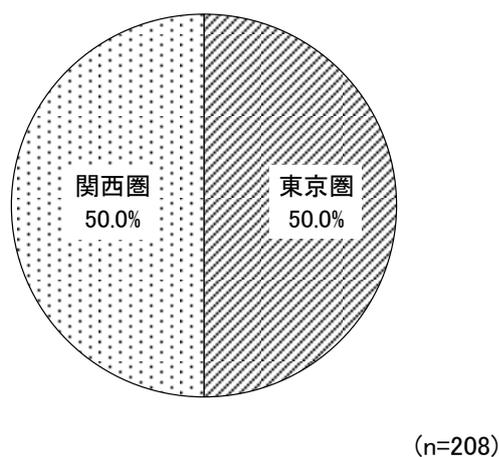
職業は「会社員(事務系)」が21.2%で最も多く、次いで「会社員(その他)」が12.5%、「会社員(技術系)」が12.0%となっている。



### (4) 現在の居住地

現在の居住地は「東京圏」「関西圏」それぞれ半数ずつとなっている。

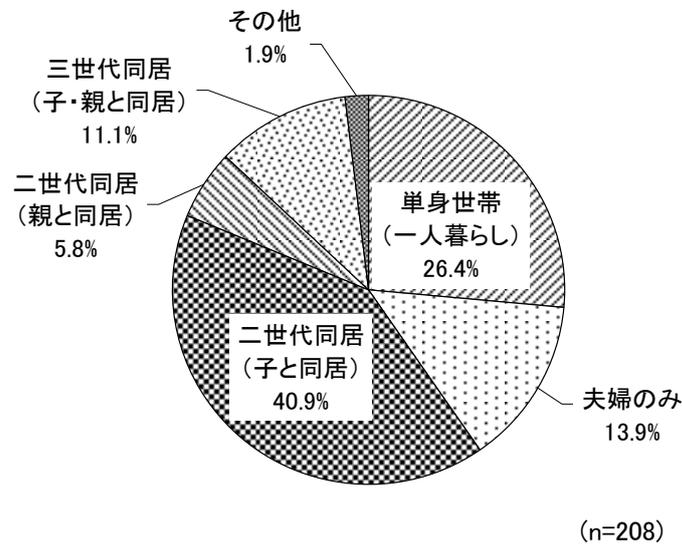
図表 II-4 現在の居住地



### (5) 現在の家族構成(Q1)

現在の家族構成は「二世世代同居（子と同居）」が40.9%で最も多く、次いで「単身世帯（一人暮らし）」が26.4%、「夫婦のみ」が13.9%となっている。

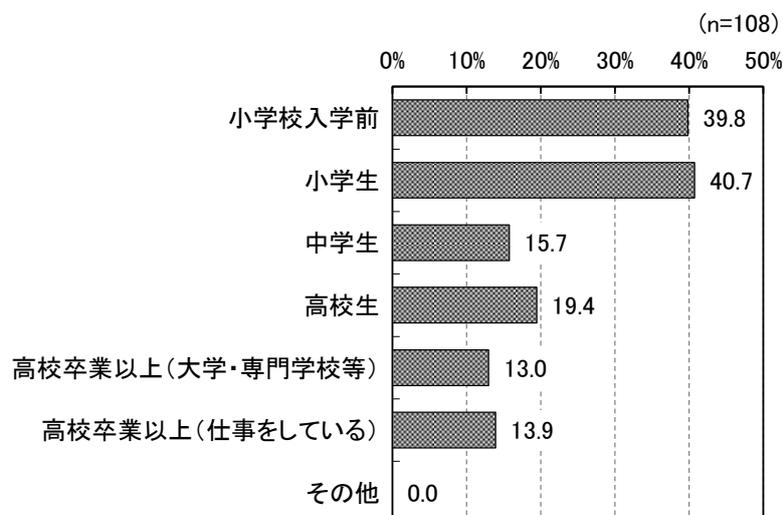
図表 II-5 現在の家族構成



### (6) 同居の子ども(Q2)

同居している子どもは「小学生」が40.7%で最も多く、次いで「小学校入学前」が39.8%で、比較的 low年齢の子どもがいる回答者が多い。年齢階層別にみると、「20～29歳」、「30～39歳」は小学校入学前の子どもと同居している割合が高く、「40～49歳」以降は小学生以降の子どもと同居している割合が高い。

図表 II-6 同居の子ども(複数回答)



図表 II-7 同居の子ども(複数回答)(属性別集計)

(単位:調査数は人、それ以外は%)

		調査数	小学校入学前	小学生	中学生	高校生	高校卒業以上 (大学・専門学校等)	高校卒業以上 (仕事をしている)	その他
全体		108	39.8	40.7	15.7	19.4	13.0	13.9	0.0
性別	男性	70	40.0	44.3	14.3	25.7	14.3	8.6	0.0
	女性	38	39.5	34.2	18.4	7.9	10.5	23.7	0.0
居住地	東京圏	50	32.0	34.0	20.0	28.0	10.0	14.0	0.0
	関西圏	58	46.6	46.6	12.1	12.1	15.5	13.8	0.0
年齢階級	20～29歳	30	73.3	46.7	3.3	3.3	13.3	6.7	0.0
	30～39歳	23	65.2	47.8	13.0	4.3	4.3	0.0	0.0
	40～49歳	27	22.2	63.0	33.3	40.7	11.1	0.0	0.0
	50～59歳	22	0.0	9.1	18.2	36.4	22.7	36.4	0.0
	60歳以上	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0

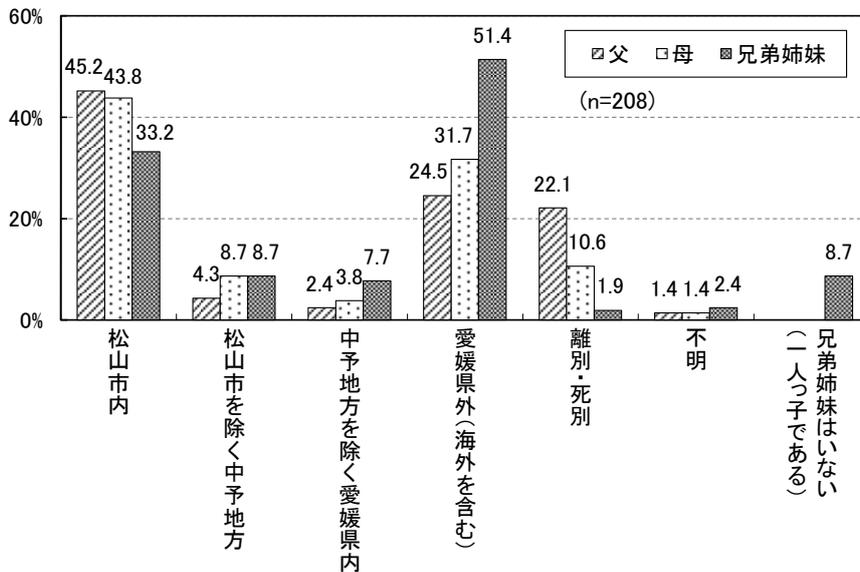
(注) 全体の割合より 10 ポイント以上大きい値を白抜き、10 ポイント以上小さい値を斜体字で示している。ただし、調査数が 10 以下の場合にはこれらの表記はしない(以下同様)。

(7) 親・兄弟姉妹の居住地(Q3)

父母の居住地は「松山市内」が最も多く(父 45.2%、母 43.8%)、次いで「愛媛県外(海外を含む)」が多い(父 24.5%、母 31.7%)。

一方、兄弟姉妹の居住地は、「愛媛県外(海外含む)」が 51.4%と最も多く、「松山市内」はその次(33.2%)である。

図表 II-8 親・兄弟姉妹の居住地(兄弟姉妹のみ複数回答)

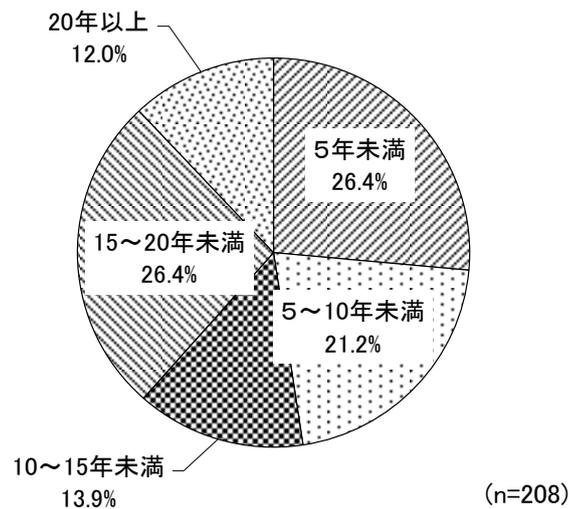


## 2. 松山市（愛媛県）からの転居について

### (1) 松山市での居住年数(Q4)

居住年数は「5年未満」「15～20年未満」がともに26.4%、次いで「5～10年未満」が21.2%となっており、回答者の約半数は松山市内での居住年数が10年未満である。

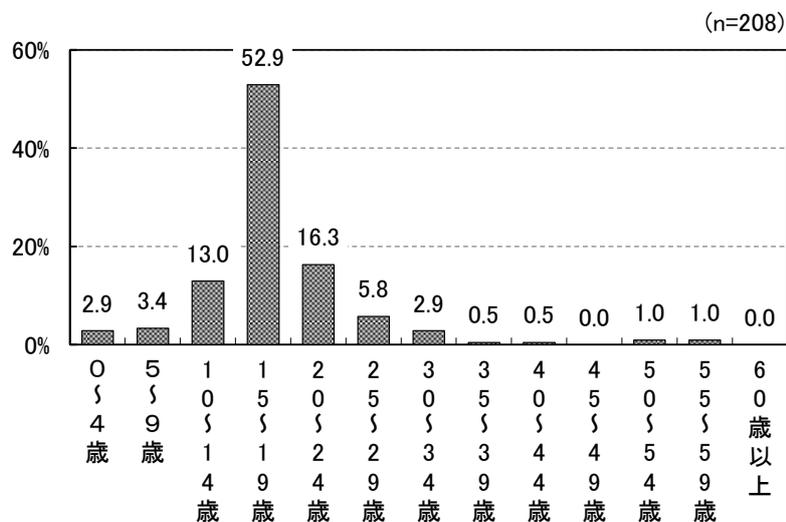
図表 II-9 松山市での居住年数



### (2) 愛媛県外への転居時の年齢(Q4)

転居時の年齢は「15～19歳」が52.9%と突出しており、進学や就職のタイミングで転居していることが推察される。

図表 II-10 転居時の年齢

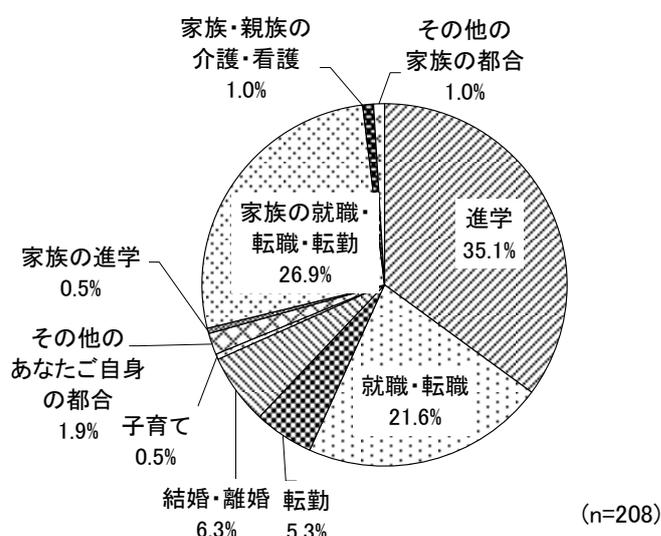


### (3) 最後に愛媛県外に転居したきっかけ(Q5)

最後に愛媛県外に転居したきっかけをみると、回答者本人の都合では、「進学」が35.1%、「就職・転職」が21.6%と大きな割合を占める。また、「家族の就職・転職・転勤」で転居した回答者も26.9%となっている。

属性別にみると、男性は女性に比べて「就職・転職」によって県外に転居した割合が高い。一方で女性では「結婚・離婚」で転居した割合が17.6%を占めるが、本調査において男性は0%であった。また居住地別では、東京圏の回答者は関西圏に比べて「進学」の割合が高い。逆に関西圏では「就職・転職」をきっかけに転居した方が東京圏より多い。

図表 II-11 転居したきっかけ



図表 II-12 転居したきっかけ

(単位:調査数は人、それ以外は%)

	調査数	進学	就職・転職	転勤	結婚・離婚	子育て	その他のあなたご自身の都合	家族の進学	家族の就職・転職・転勤	家族・親族の介護・看護	その他の家族の都合
全体	208	35.1	21.6	5.3	6.3	0.5	1.9	0.5	26.9	1.0	1.0
性別	男性	134	35.1	28.4	5.2	0.0	0.7	0.7	28.4	0.7	0.0
	女性	74	35.1	9.5	5.4	17.6	0.0	4.1	24.3	1.4	2.7
居住地	東京圏	104	41.3	12.5	4.8	6.7	0.0	3.8	29.8	1.0	0.0
	関西圏	104	28.8	30.8	5.8	5.8	1.0	0.0	24.0	1.0	1.9

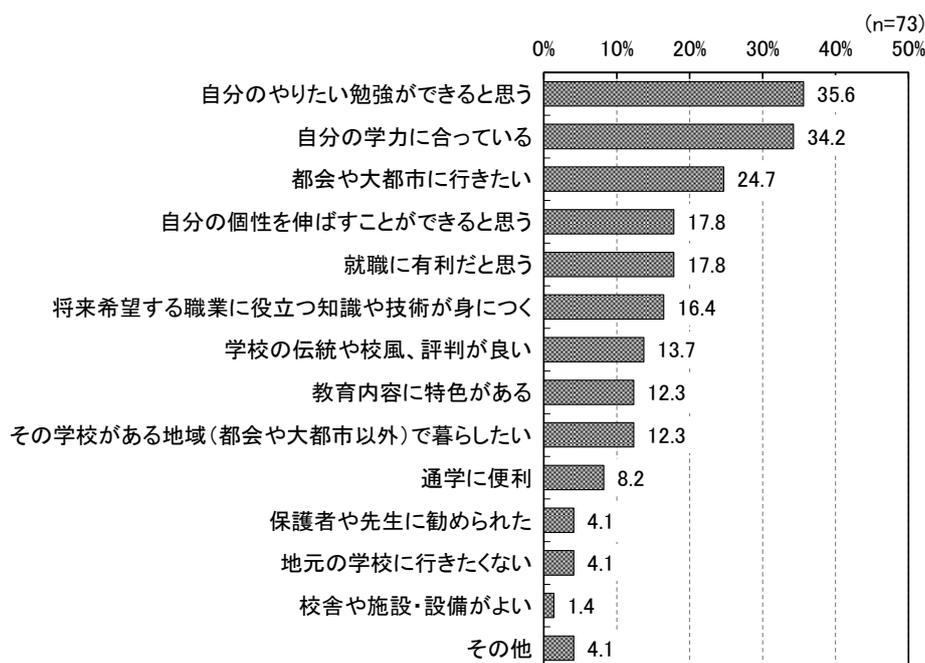
#### (4)「進学」の際に愛媛県外に転居した理由(Q6)

進学の際に愛媛県外に転居した理由としては、「自分のやりたい勉強ができると思う」(35.6%)、「自分の学力に合っている」(34.2%)が多く、その次に多いのは、「都会や大都市に行きたい」(24.7%)である。

男女間で大きな差がみられたもののうち、女性が選択する割合が高かったものは「自分のやりたい勉強ができると思う」(男性：27.7%、女性：50.0%)、「その学校がある地域(都会や大都市以外)で暮らしたい」(男性：4.3%、女性：26.9%)であった。一方男性が選択する割合が高かったものは、「就職に有利だと思う」(男性：23.4%、女性：7.7%)であった。

居住地別にみると、東京圏が関西圏よりも高かった項目は「自分がやりたい勉強ができると思う」(東京圏：44.2%、関西圏：23.3%)、「学校の伝統や校風、評判が良い」(東京圏：20.9%、関西圏：3.3%)であった。関西圏が東京圏よりも高かった項目は「その学校がある地域(都会や大都市以外)で暮らしたい」(東京圏：4.7%、関西圏：23.3%)である。

図表 II-13 「進学」の際に愛媛県外に転居した理由(複数回答)



図表 II-14 「進学」の際に愛媛県外に転居した理由(複数回答)(属性別集計)

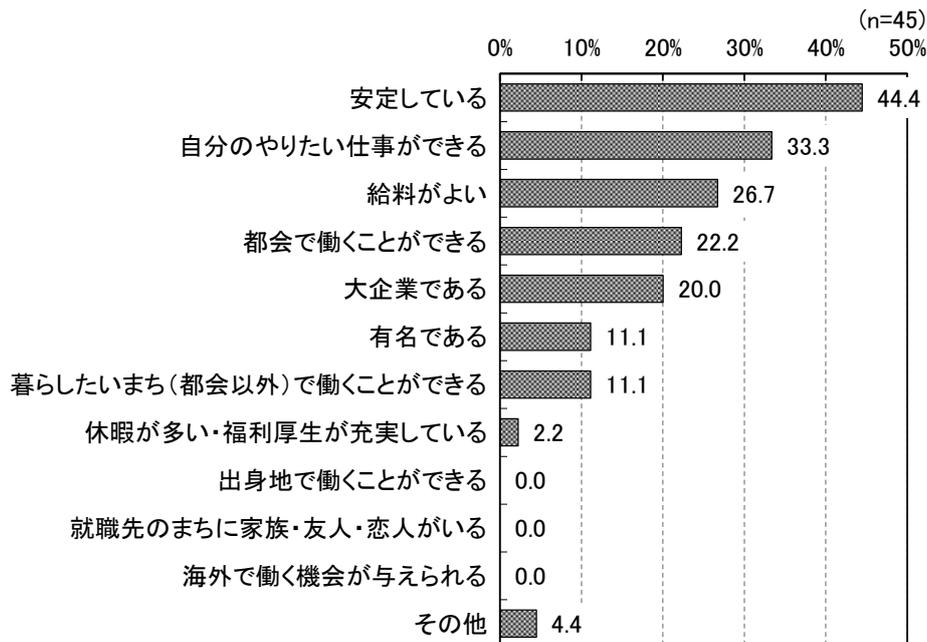
(単位:調査数は人、それ以外は%)

		調査数	自分の学力に合っている	できると思う	自分のやりたい勉強ができると思う	就職に有利だと思う	教育内容に特色がある	将来希望する職業に役立つ知識や技術が身につく	学校の伝統や校風、評判が良い	校舎や施設・設備がよい	保護者や先生に勧められた	通学に便利	都会や大都市に行きたい	(その学校がある地域(都会や大都市以外)で暮らしたい)	地元の学校に行きたくない	その他
全体		73	34.2	17.8	35.6	17.8	12.3	16.4	13.7	1.4	4.1	8.2	24.7	12.3	4.1	4.1
性別	男性	47	38.3	19.1	27.7	23.4	10.6	17.0	14.9	0.0	2.1	6.4	23.4	4.3	0.0	4.3
	女性	26	26.9	15.4	50.0	7.7	15.4	15.4	11.5	3.8	7.7	11.5	26.9	26.9	11.5	3.8
居住地	東京圏	43	37.2	23.3	44.2	18.6	9.3	16.3	20.9	0.0	7.0	7.0	25.6	4.7	2.3	2.3
	関西圏	30	30.0	10.0	23.3	16.7	16.7	16.7	3.3	3.3	0.0	10.0	23.3	23.3	6.7	6.7

(5) 「就職・転職」の際に愛媛県外に転居した理由(Q7)

「就職・転職」の際、愛媛県外に転居した理由は「安定している」が44.4%で最も多く、次いで「自分のやりたい仕事ができる」が33.3%、「給料がよい」が26.7%である。働く場所よりも仕事の内容や雇用条件等を考慮して県外に転居した人が多い。

図表 II-15 「就職・転職」の際に愛媛県外に転居した理由(複数回答)

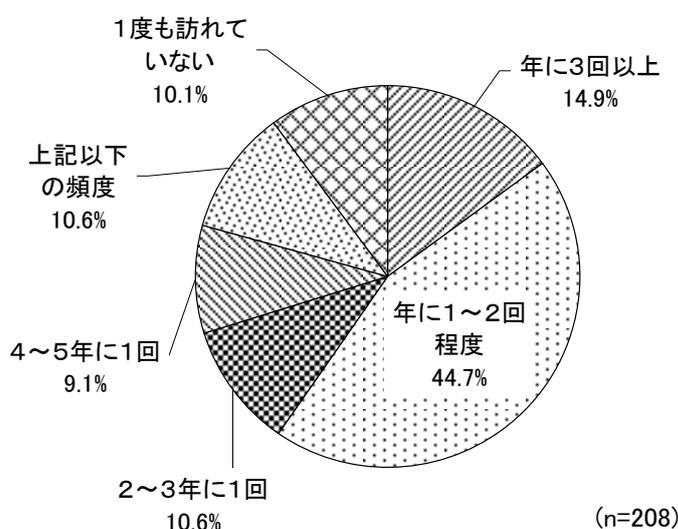


## (6) 松山市への来訪頻度(Q8)

転居後の松山市への来訪頻度は「年に1～2回程度」が44.7%で最も多く、次いで「年に3回以上」が14.9%となっており、回答者の約6割が年に1回は松山市を来訪している。

転居後の松山市への来訪頻度は年齢が高くなるにつれて減少する傾向にある。「20～39歳」では年に1回以上来訪する回答者が80.0%であるが、「30～39歳」では62.0%、「40～49歳」では51.9%、「50～59歳」「60歳以上」では40%を下回る。2-(2)より愛媛県外に転居したときの年齢が「15～19歳」前後に集中していることから、愛媛県外に転居してからの経過時間が松山市への来訪頻度に影響を与えられらる。

図表 II-16 松山市への来訪頻度



図表 II-17 松山市への来訪頻度

(単位: 調査数は人、それ以外は%)

	調査数	来訪頻度						
		年に3回以上	年に1～2回程度	2～3年に1回	4～5年に1回	上記以下の頻度	1度も訪れていない	
全体	208	14.9	44.7	10.6	9.1	10.6	10.1	
性別	男性	134	13.4	41.0	9.7	12.7	11.2	11.9
	女性	74	17.6	51.4	12.2	2.7	9.5	6.8
居住地	東京圏	104	14.4	43.3	8.7	10.6	11.5	11.5
	関西圏	104	15.4	46.2	12.5	7.7	9.6	8.7
年齢階級	20～29歳	60	18.3	61.7	8.3	5.0	3.3	3.3
	30～39歳	50	20.0	42.0	12.0	10.0	12.0	4.0
	40～49歳	54	9.3	42.6	9.3	11.1	13.0	14.8
	50～59歳	33	9.1	30.3	15.2	9.1	12.1	24.2
	60歳以上	11	18.2	18.2	9.1	18.2	27.3	9.1

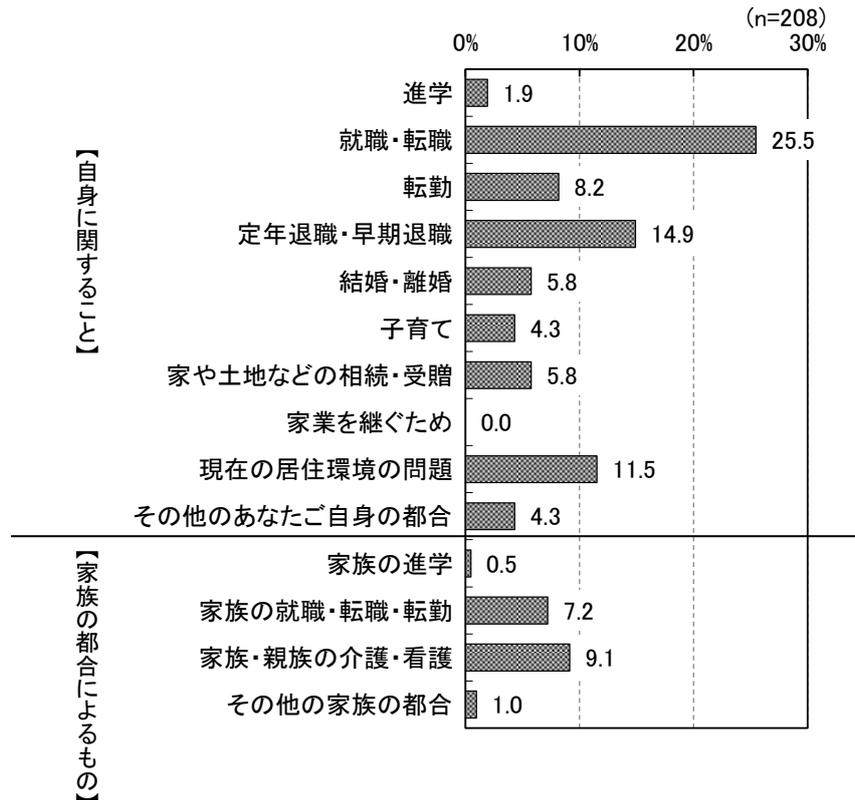
### 3. 松山市へのUターン意向について

#### (1) 松山市にUターンする場合のきっかけ(Q9)

松山市にUターンするとした場合のきっかけについては、回答者自身に関する項目への回答が多く、「就職・転職」(25.5%)、「定年退職・早期退職」(14.9%)、「現在の居住環境の問題」(11.5%)の回答が1割を超えている。家族の都合によるものでは「家族・親族の介護・看護」(9.1%)が最も多い。

若年層ほど「就職・転職」または「家族の就職・転職・転勤」がきっかけになると答えた割合が高く、年齢が上がるにつれてしごとを変えることがUターンのきっかけになりにくいことが分かる。一方で、定年に近い「50～59歳」「60歳以上」の回答者が「定年退職・早期退職」を選んだ割合はそれぞれ21.2%、27.3%であり、「現在の居住環境の問題」(それぞれ18.2%、36.4%)と近い下回っている。「現在の居住環境の問題」はUターンをするにあたっての積極的なきっかけではないと考えられるため、積極的にUターンのきっかけをつくる50～64歳の中年層は少ないと思われる。

図表 II-18 松山市にUターンする場合のきっかけ



図表 II-19 松山市にUターンする場合のきっかけ(属性別集計)

(単位:調査数は人、それ以外は%)

	調査数	進学	就職・転職	転勤	定年退職・早期退職	結婚・離婚	子育て	家や土地などの相続・受贈	家業を継ぐため	現在の居住環境の問題	その他のあなたご自身の都合	家族の進学	家族の就職・転職・転勤	家族・親族の介護・看護	その他の家族の都合	
全体	208	1.9	25.5	8.2	14.9	5.8	4.3	5.8	0.0	11.5	4.3	0.5	7.2	9.1	1.0	
性別	男性	134	1.5	33.6	8.2	18.7	3.7	2.2	5.2	0.0	11.9	4.5	0.7	3.0	6.7	0.0
	女性	74	2.7	10.8	8.1	8.1	9.5	8.1	6.8	0.0	10.8	4.1	0.0	14.9	13.5	2.7
居住地	東京圏	104	2.9	23.1	7.7	14.4	6.7	4.8	5.8	0.0	13.5	4.8	0.0	3.8	11.5	1.0
	関西圏	104	1.0	27.9	8.7	15.4	4.8	3.8	5.8	0.0	9.6	3.8	1.0	10.6	6.7	1.0
年齢階級	20～29歳	60	3.3	43.3	5.0	1.7	8.3	8.3	6.7	0.0	3.3	3.3	1.7	6.7	8.3	0.0
	30～39歳	50	4.0	22.0	12.0	14.0	8.0	8.0	4.0	0.0	8.0	0.0	0.0	12.0	6.0	2.0
	40～49歳	54	0.0	22.2	7.4	24.1	3.7	0.0	5.6	0.0	14.8	1.9	0.0	7.4	13.0	0.0
	50～59歳	33	0.0	12.1	12.1	21.2	3.0	0.0	9.1	0.0	18.2	12.1	0.0	3.0	6.1	3.0
	60歳以上	11	0.0	0.0	0.0	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	36.4	18.2	0.0	0.0	18.2	0.0

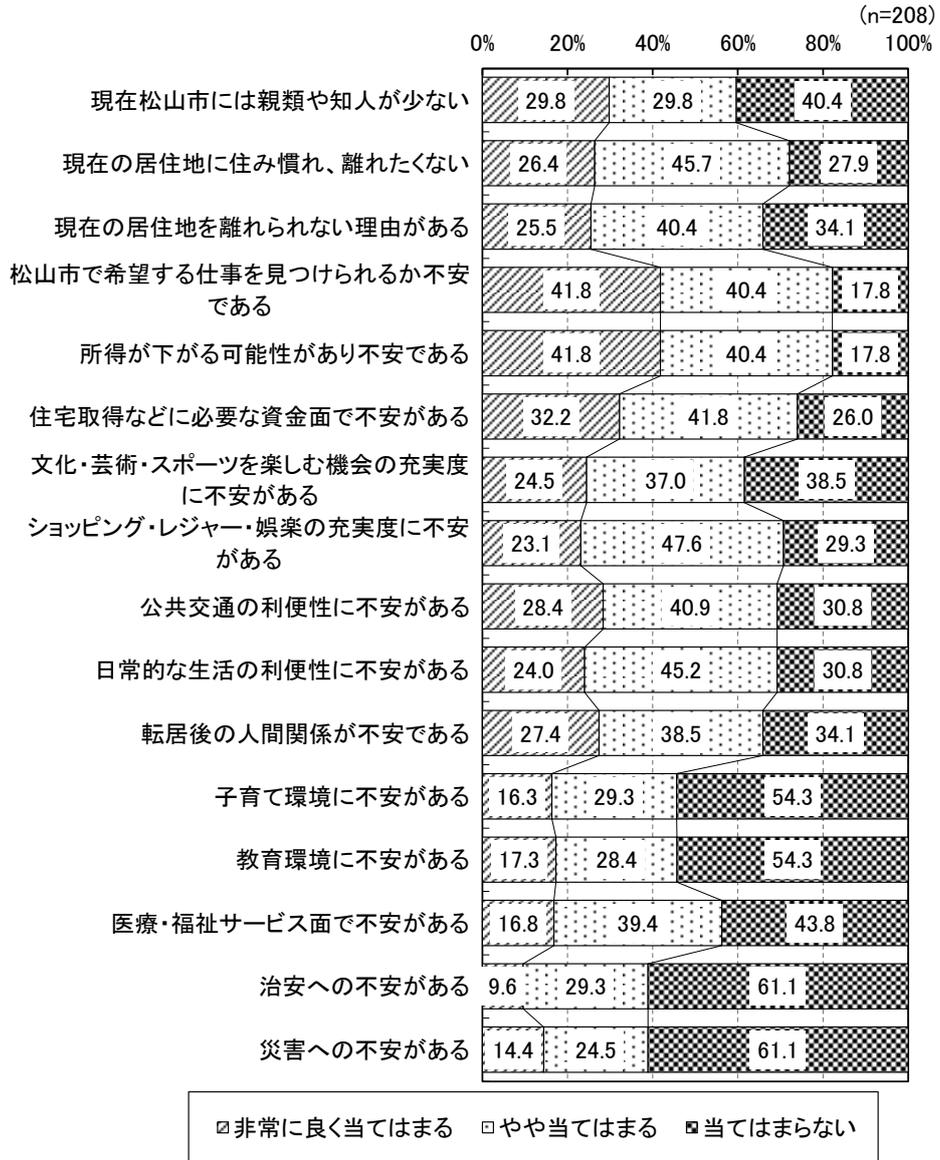
(2) Uターンする場合に不安なこと(Q10)

Uターンする場合に不安なことで、「あてはまる」(「非常によくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計)の割合をみると、「松山市で希望する仕事を見つけられるか不安である」と「所得が下がる可能性があり不安である」がともに82.2%(うち「非常にあてはまる」は41.8%)、次いで「住宅取得などに必要な資金面で不安がある」が74.0%(うち「非常にあてはまる」は32.2%)となっており、「仕事」と「住居」が重要なポイントとなっていることが推察される。

また、ショッピング・レジャー・娯楽や公共交通及び日常生活の利便性、転居後の人間関係に不安をもつ回答者も多い。

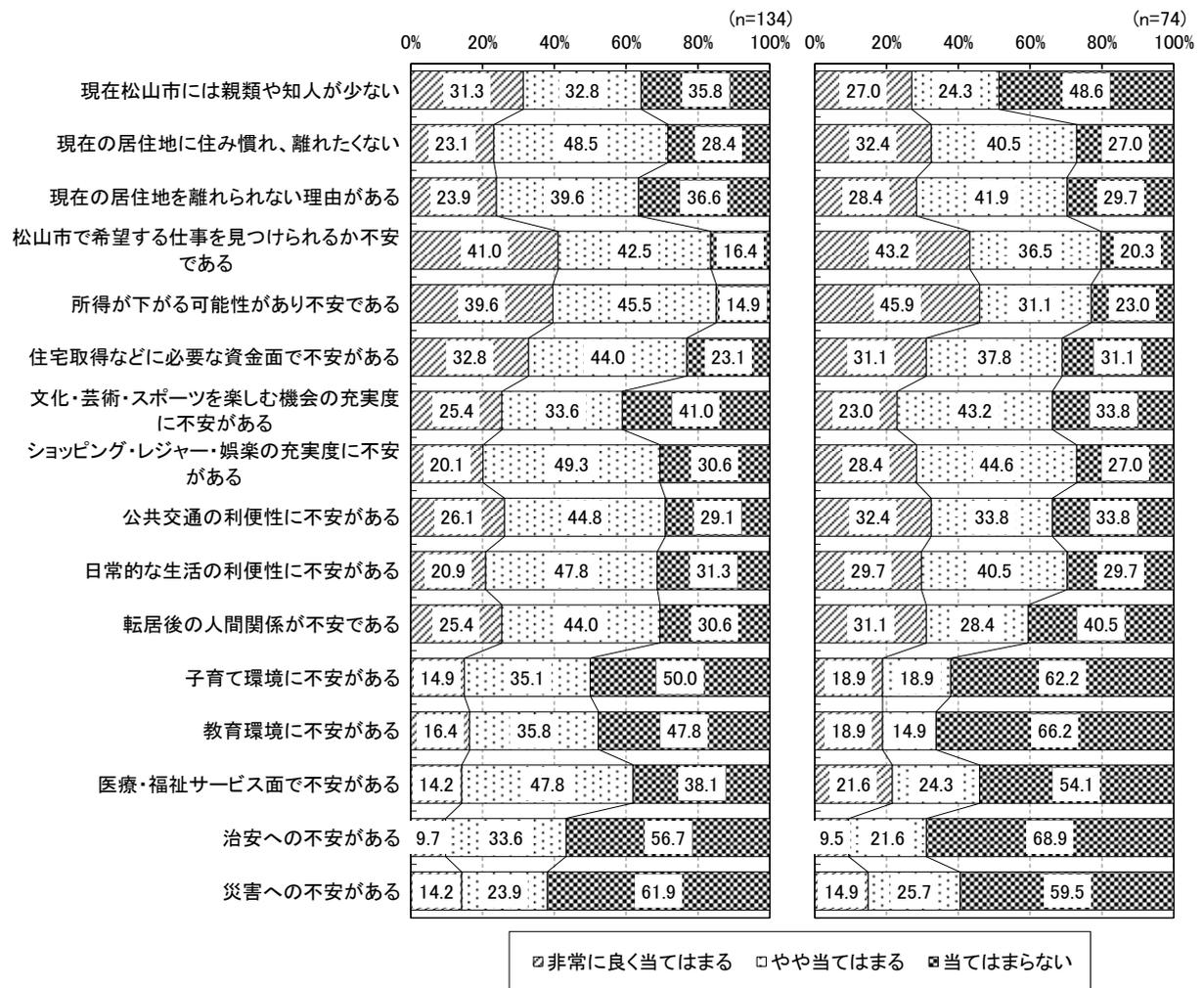
一方、松山市の環境に対する不安とは別に、「現在の居住地に住み慣れ、離れたくない」(72.1%)、「現在の居住地を離れられない理由がある」(65.9%)とする回答者も多い。

図表 II-20 Uターンする場合に不安なこと



男女間の差をみると、「子育て環境に不安がある」「教育環境に不安がある」に対して「非常に良く当てはまる」と答えた回答者の割合は女性の方が高いが、「非常に良く当てはまる」「やや当てはまる」の合計は男性の方が高い結果となった。1-(7)より、松山市近辺に親や兄弟姉妹が居住されている場合も多く、それによっても子育てや教育の不安が変化すると考えられる。

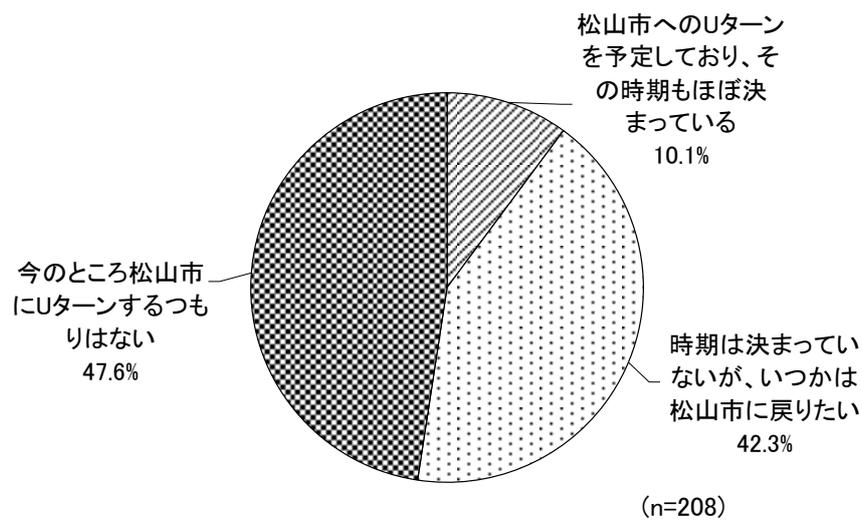
図表 II-21 Uターンする場合に不安なこと(左:男性、右:女性)



### (3) 松山市へのUターン意向(Q11)

松山市へのUターン意向については、「今のところ松山市にUターンするつもりはない」が47.6%で約半数を占める。その一方で、約1割の回答者が「松山市へのUターンを予定しており、その時期もほぼ決まっている」としており、また「時期は決まっていないが、いつかは松山市に戻りたい」とする回答者も42.3%にのぼる。

図表 II-22 松山市へのUターン意向



性別や居住地によっては松山市へのUターン意向に大きな差はみられなかったが、年齢階層によって大きな差が確認された。Uターンの予定・希望がある回答者は「20～29歳」では66.7%であるが年齢が高くなるとともに低下し、「30～39歳」では62.0%、「40～49歳」では42.6%、「50～59歳」では36.4%、「60歳以上」では27.3%である。特に大きな変化がみられるのは「30～39歳」と「40～49歳」の間である。1-(6)でみたようにこの年齢階層間で子どもが「小学校入学前」から「小学生」へと変わるため、子どもの就学がUターンの障害となることが考えられる。

また、子どもが独立する「50～59歳」「60歳以上」では「今のところ松山市にUターンするつもりはない」がそれぞれ63.6%、72.7%と大きな割合を占める。2-(6)より多くの方は20代前半までに愛媛県外に転居されており、県外での居住期間が長くなることによって、育った松山市に戻りたいという意向は大幅に低下するものと考えられる。

図表 II-23 松山市へのUターン意向

(単位:調査数は人、それ以外は%)

		調査数	ほぼ予定済み	松山市へのUターンを期す	いつかは松山市に戻りたい	今のところ松山市にはない
全体		208	10.1	42.3	47.6	
性別	男性	134	11.2	44.8	44.0	
	女性	74	8.1	37.8	54.1	
居住地	東京圏	104	9.6	41.3	49.0	
	関西圏	104	10.6	43.3	46.2	
年齢階級	20～29歳	60	16.7	50.0	33.3	
	30～39歳	50	6.0	56.0	38.0	
	40～49歳	54	7.4	35.2	57.4	
	50～59歳	33	9.1	27.3	63.6	
	60歳以上	11	9.1	18.2	72.7	

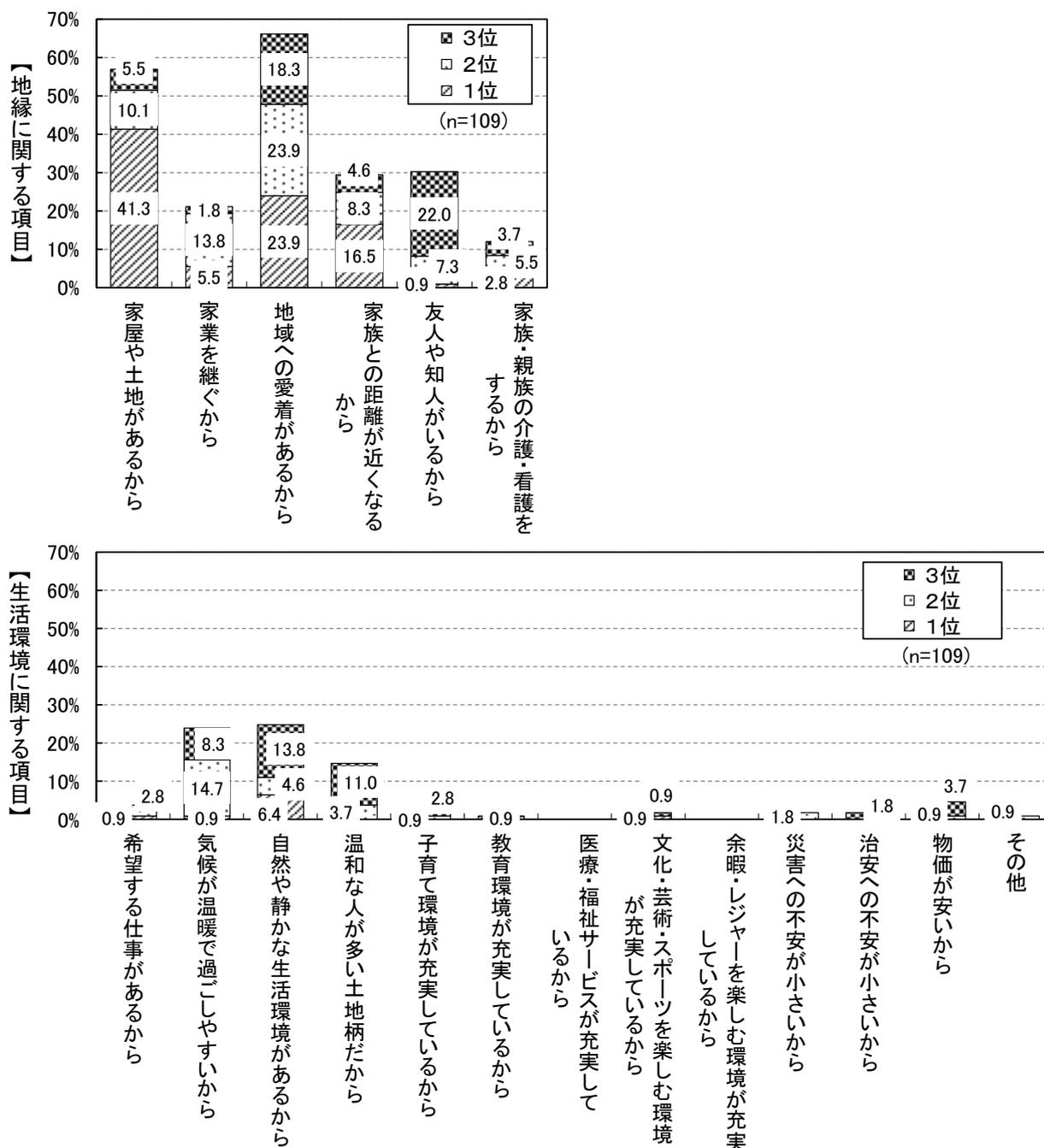
#### (4) 松山市へのUターンを希望する理由(Q12)

松山市へのUターンを希望する理由は、地縁に関する項目への回答が多く、1位の理由では「家屋や土地があるから」(41.3%)が圧倒的に多く、次いで「地域への愛着があるから」(23.9%)、「家族との距離が近くなるから」(16.5%)となっている。

1位から3位の合計では、回答が多い順に「地域への愛着があるから」(66.1%)、「家屋や土地があるから」(56.9%)、「友人や知人がいるから」(30.2%)となっている。

生活環境に関する項目は、全体的に回答が少ないものの、「自然や静かな生活環境があるから」と「気候が温暖で過ごしやすいから」が比較的多い。

図表 II-24 松山市へのUターンを希望する理由(複数回答)



(注)回答数「0」は表示していない

松山市へのUターンを希望する理由を属性別に確認すると、男女間、居住地間、年齢階級間で差がみられた。

男女間で回答割合が大きく異なった項目は「家族との距離が近くなるから」(男性:20.0%、女性:50.0%)である。「家族・親族の介護・看護をするから」(男性:10.7%、女性:14.7%)は男女間で大きな差がないことから、家族の近くにいる必要が生じるのではなく、男女間の心理面での差によるものと考えられる。

居住地間では「家屋や土地があるから」(東京圏:45.3%、関西圏:67.9%)、「家族との距離が近くなるから」(東京圏:39.6%、関西圏:19.6%)に大きな差がみられた。家族との距離に関する項目で大きな差がついたことから、関西圏、東京圏ともに空路で結ばれているにもかかわらず、東京圏の居住者は関西圏の居住者以上に松山市との距離を感じていることがうかがえる。そしてこの地理的な距離が、「家屋や土地があった際にUターンをしたい」という意向の差を生み出していると考えられる。このことから、県外へ転居される方が東京圏ではなく関西圏を選択することは、松山市への潜在的なUターン転居者を増やすことにつながると考えられる。

図表 II-25 松山市へのUターンを希望する理由(複数回答)(属性別集計)

(単位:調査数は人、それ以外は%)

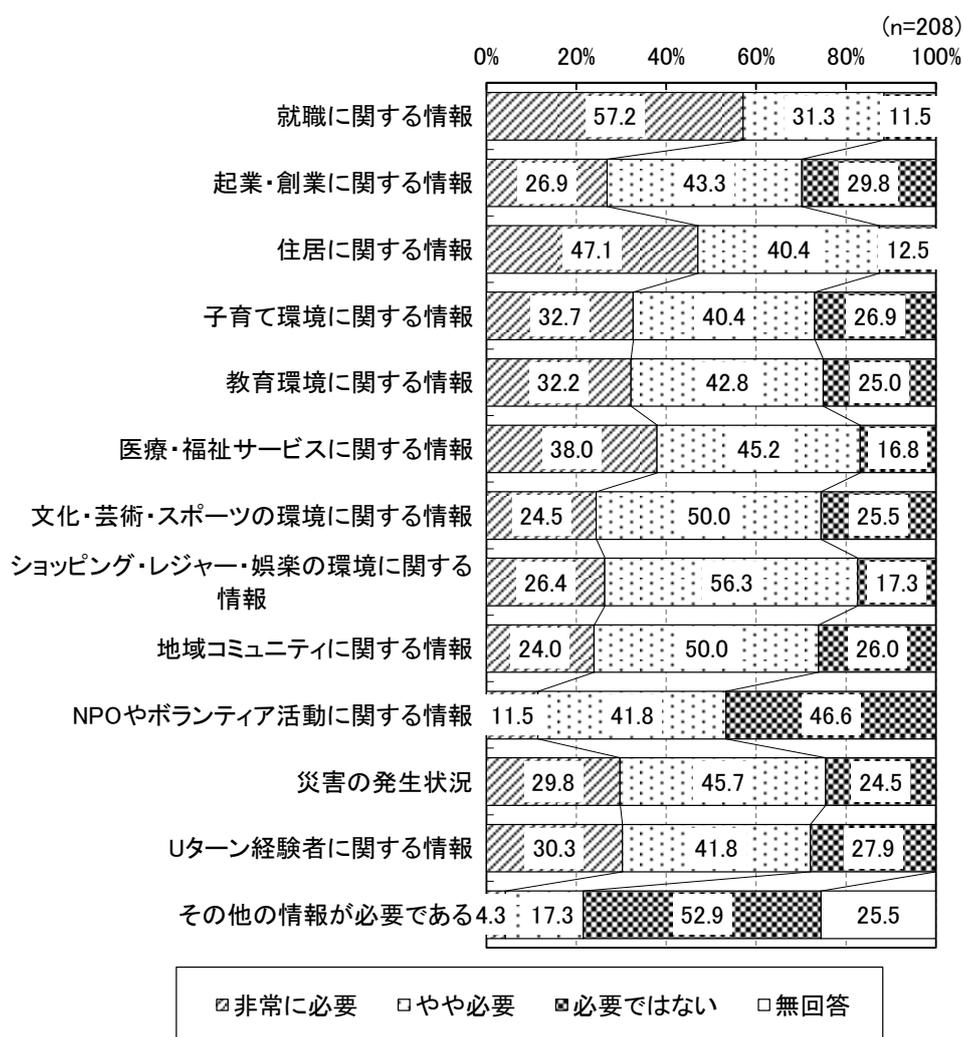
	調査数	家屋や土地があるから	家業を継ぐから	地域への愛着があるから	家族との距離が近くなるから	友人や知人がいるから	介護・親族の看護をするから	希望する仕事があるから	気候が温暖で過ごしやすいから	自然や静かな生活環境があるから	温かな人が多い土地柄だから	子育て環境が充実しているから	教育環境が充実しているから	医療・福祉サービスが充実しているから	環境が充実しているから	文化・芸術・スポーツを楽しむから	余暇・レジャーを楽しむから	災害への不安が小さいから	治安への不安が小さいから	物価が安いから	その他
全体	208	56.9	21.1	66.1	29.4	30.3	11.9	3.7	23.9	24.8	14.7	3.7	0.9	0.0	1.8	0.0	1.8	1.8	4.6	0.9	
性別	男性	134	61.3	22.7	69.3	20.0	33.3	10.7	1.3	25.3	24.0	13.3	2.7	1.3	0.0	2.7	0.0	2.7	1.3	4.0	1.3
	女性	74	47.1	17.6	58.8	50.0	23.5	14.7	8.8	20.6	26.5	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	5.9	0.0
居住地	東京圏	104	45.3	18.9	66.0	39.6	26.4	11.3	3.8	26.4	30.2	15.1	3.8	1.9	0.0	1.9	0.0	3.8	3.8	1.9	0.0
	関西圏	104	67.9	23.2	66.1	19.6	33.9	12.5	3.6	21.4	19.6	14.3	3.6	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	1.8
年齢階級	20~29歳	40	75.0	25.0	80.0	17.5	47.5	0.0	2.5	20.0	10.0	17.5	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30~39歳	31	41.9	22.6	64.5	41.9	35.5	12.9	6.5	12.9	25.8	6.5	6.5	3.2	0.0	0.0	0.0	3.2	6.5	3.2	0.0
	40~49歳	23	43.5	21.7	65.2	26.1	8.7	26.1	0.0	34.8	43.5	17.4	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0
	50~59歳	12	58.3	0.0	33.3	33.3	8.3	25.0	8.3	41.7	33.3	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	8.3
	60歳以上	3	66.7	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

### (5) Uターンを考える際に必要な情報(Q13)

Uターンを考える際に「非常に必要」とされる情報は、「就職に関する情報」(57.2%)と「住居に関する情報」(47.1%)が他の項目を大きく上回っており、Uターンする場合に「仕事」と「住居」が不安と考える回答者が多いことが背景にあると考えられる。

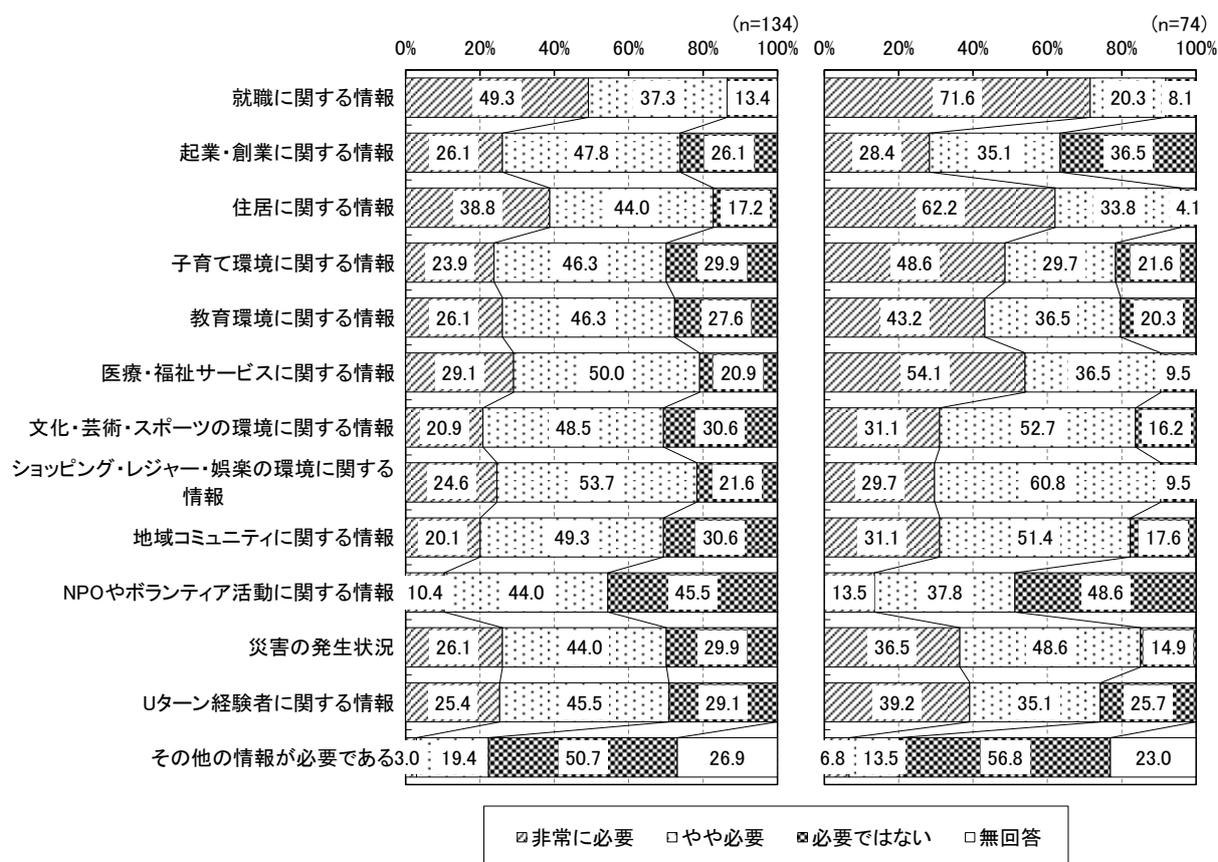
そのほか、「非常に必要」とする回答が3割を超える項目を見ると、「医療・福祉サービスに関する情報」(38.0%)、「子育て環境に関する情報」(32.7%)、「教育環境に関する情報」(32.2%)といった子育て世代の関心の高い項目があり、「Uターン経験者に関する情報」(30.3%)もこうした情報を得るための手段として求められているものと類推される。

図表 II-26 Uターンを考える際に必要な情報



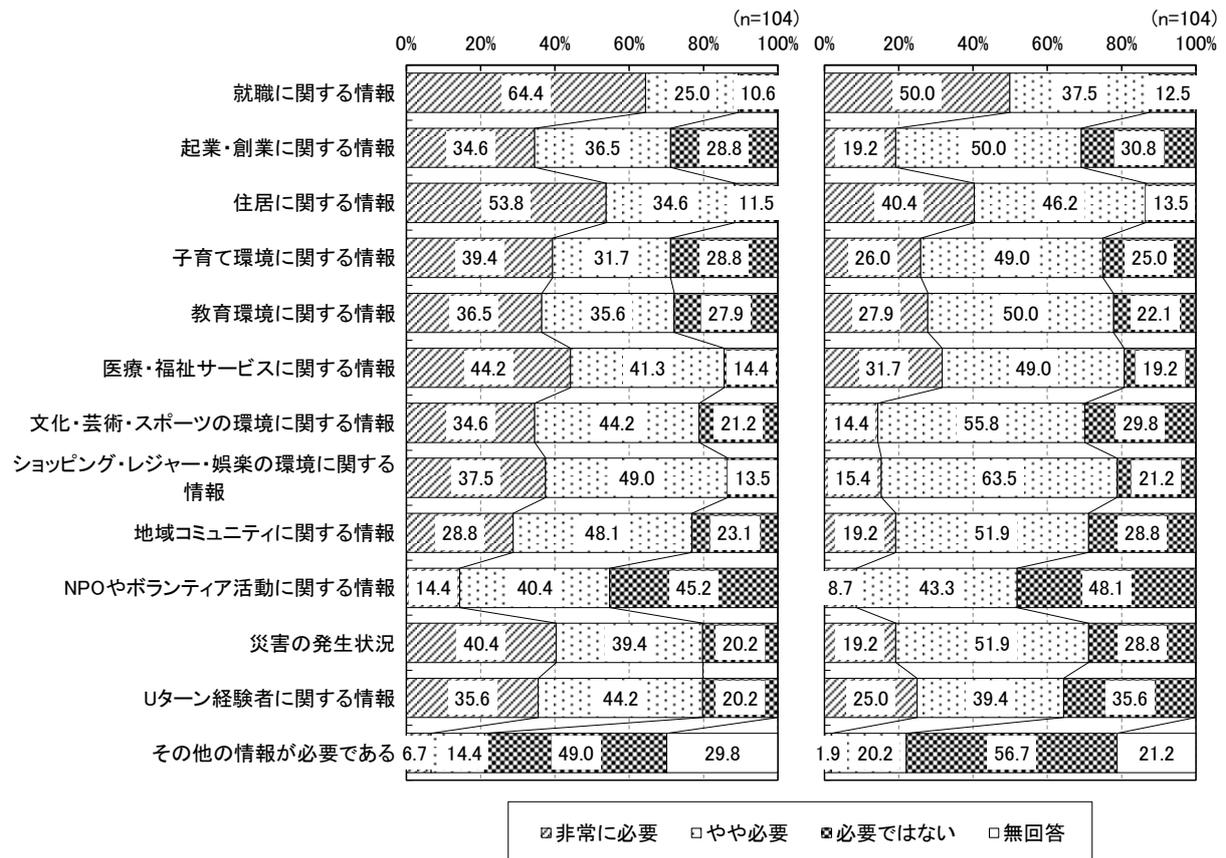
Uターンを考える際に必要となる情報は男女間で差がみられ、全体的に女性の方が情報を欲する傾向にある。男女間で「非常に必要である」という回答に差がついたものは、「就職に関する情報」(男性：49.3%、女性：71.6%)、「住居に関する情報」(38.8%、62.2%)、「子育てに関する情報」(男性：23.9%、女性：48.6%)、「医療・福祉サービスに関する情報」(男性：29.1%、女性：54.1%)であった。Uターン者を増やすために、適切な情報提供を特に女性に対して進めることが有効と考えられる。

図表 II-27 Uターンを考える際に必要な情報(左:男性、右:女性)



居住地間では、男女間に比べると近い傾向となったが、いくらかの差異が認められた。東京圏の居住者は関西圏の居住者に比べて、「文化・芸術・スポーツの環境に関する情報」、「ショッピング・レジャー・娯楽に関する情報」、「災害の発生状況」を求めていることが分かる。

図表 II-28 Uターンを考える際に必要な情報(左:東京圏、右:関西圏)

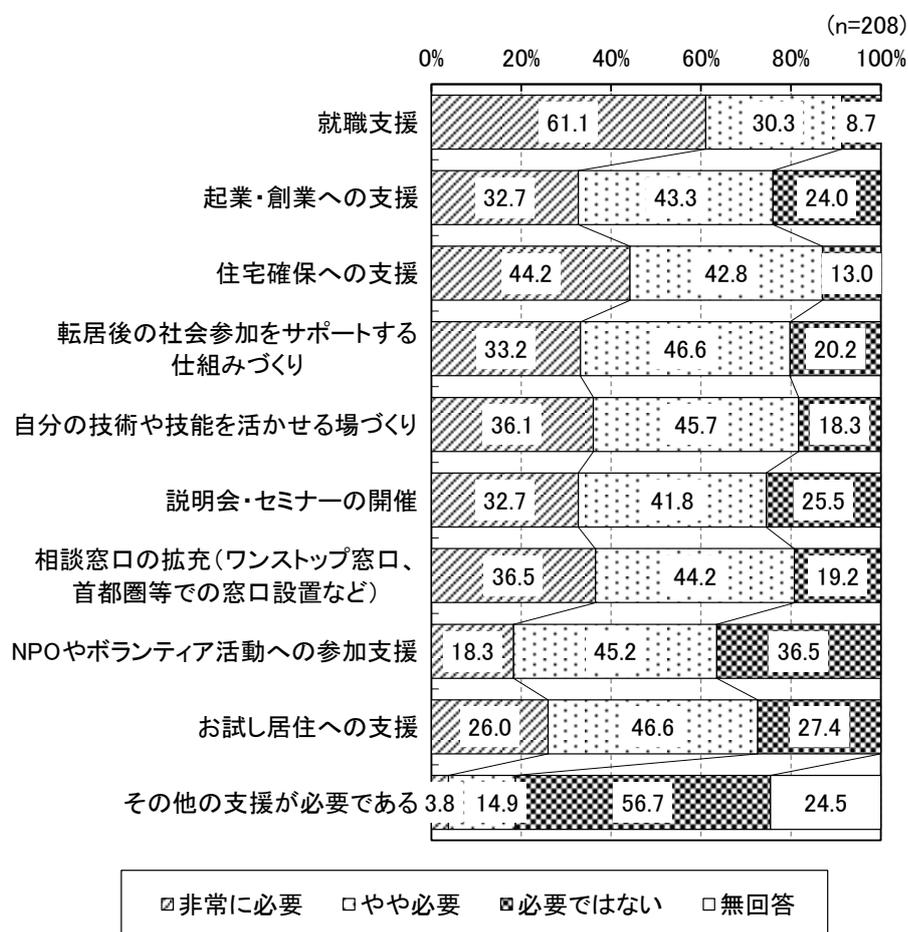


## (6) Uターンする際にあれば良いサポート(Q14)

Uターンする際のサポートの中で「非常に必要」との回答が多かったのは、「就職支援」(61.1%)と「住宅確保への支援」(44.2%)であり、先のUターンを考える際に必要な情報と同様に、「仕事」と「住居」への不安からこうしたサポートを求める回答者が多いことがうかがわれる。また、仕事に関連するサポートとしては、この他にも「自分の技術や技能を活かせる場づくり」(36.1%)、「起業・創業への支援」(32.7%)で「非常に必要」との回答が3割を超えている。

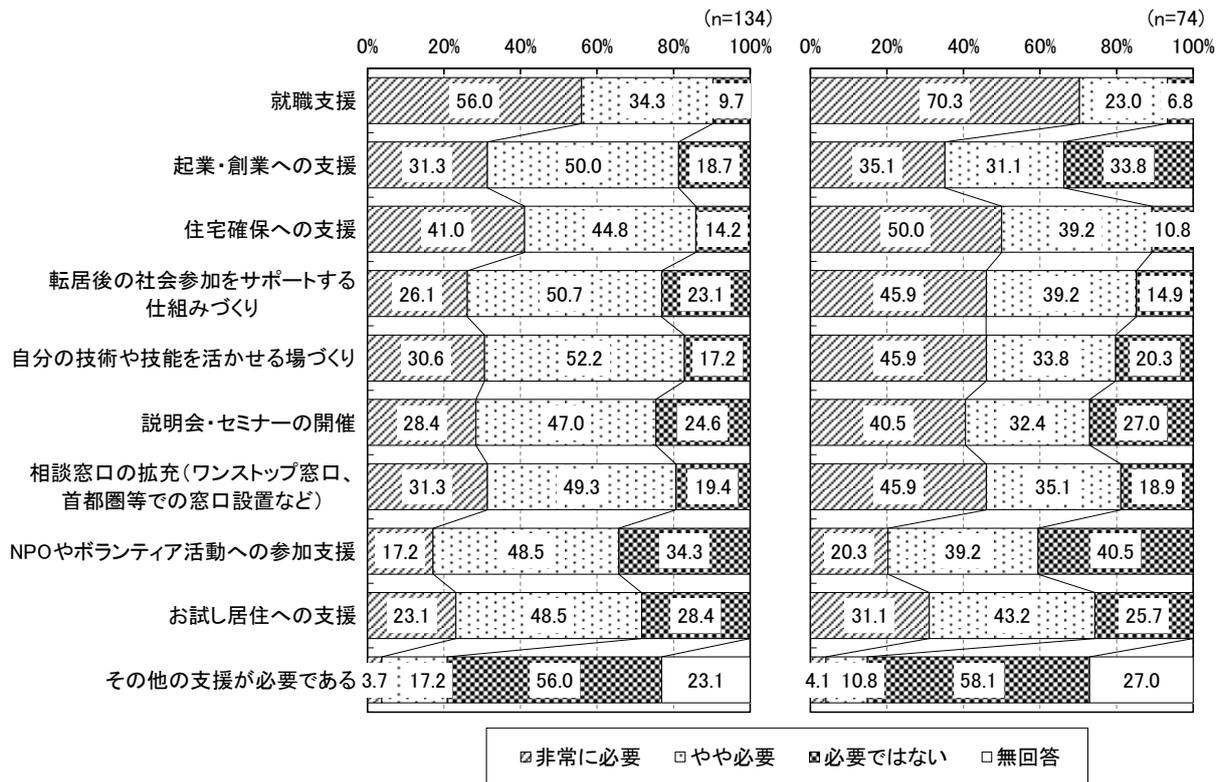
その他の項目では、「相談窓口の拡充(ワンストップ窓口、首都圏等での窓口設置など)」(36.5%)、「説明会・セミナーの開催」(32.7%)といった情報提供を求めるもののほか、「転居後の社会参加をサポートする仕組みづくり」(33.2%)を求める回答も比較的多い。

図表 II-29 Uターンする際にあれば良いサポート



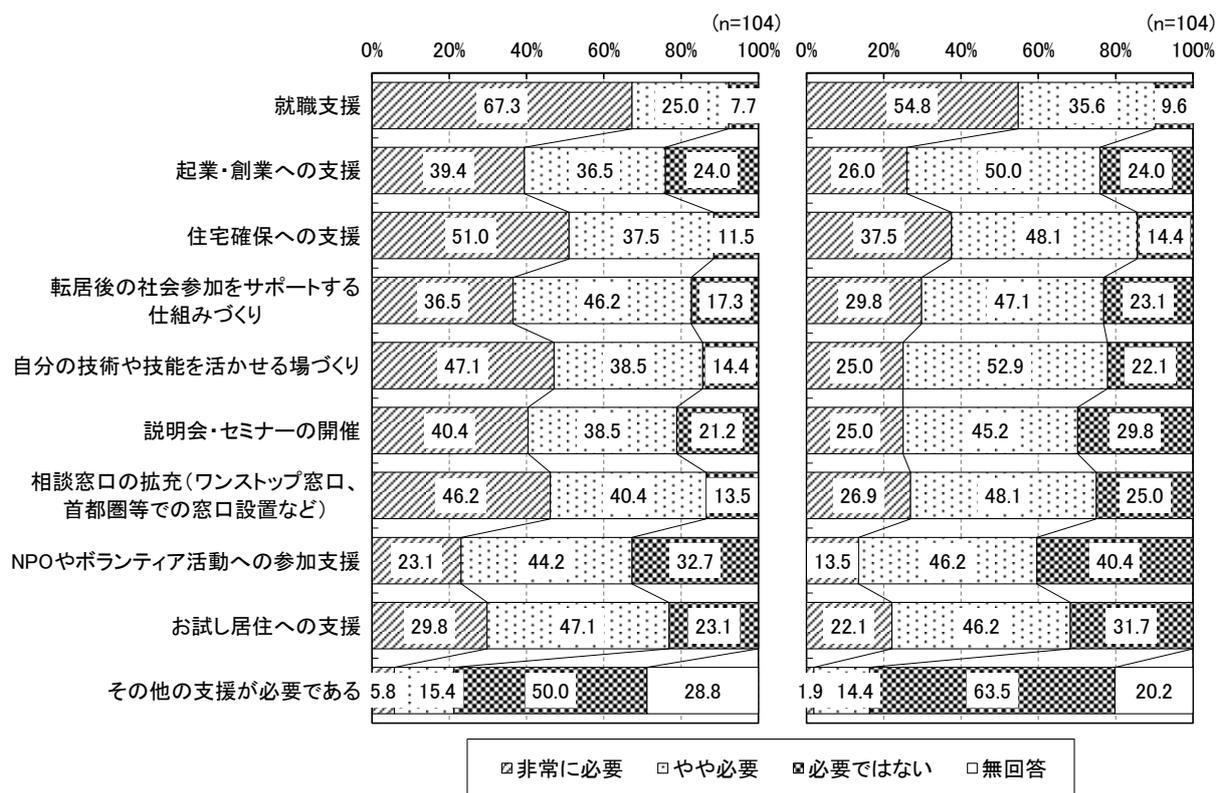
3-(5)の必要な情報と同様に、男性に比べて女性の方が全体的にサポートを求めている。特に差が大きいのは「転居後の社会参加をサポートする仕組みづくり」、「就職支援」、「自分の技術や技能を活かせる場づくり」である。

図表 II-30 Uターンする際にあれば良いサポート(左:男性、右:女性)



居住地域間で比較すると、東京圏の居住者は関西圏の居住者に比べてサポートを求めていることが分かる。最も居住地間で差が大きかったのは「相談窓口の拡充（ワンストップ窓口、首都圏等での窓口設置など）」であった。

図表 II-31 Uターンする際にあれば良いサポート(左:東京圏、右:関西圏)



#### 4. 松山市への移住を促進するために必要なこと（Q15）

松山市への移住を促進するために必要なことを尋ねたところ、幅広いテーマについて多くの回答があった。主な意見は以下に示す通りであるが、全体としては「雇用・仕事に関する意見」が最も多くみられた。

##### [雇用・仕事に関する意見]

- ・ 多様・多様な仕事／主要産業や勤め先や職種が限定されてしまうのは惜しい。
- ・ 安定した所得／3年間の最低給与保証など。
- ・ 仕事が確保されていること／就職が保証されること。
- ・ 収入がもう少し高くなければ首都圏からは移住しない。
- ・ 起業のしやすさ。

##### [子育てに関する意見]

- ・ 子育てがしやすい。
- ・ 教育環境の充実。
- ・ 子供がのびのび成長できる場所。
- ・ 引っ越してきた人が地域の子育ての輪になじめること。

##### [まちの活性化に関する意見]

- ・ 観光以外の要素によるにぎわい創出。
- ・ 道後温泉以外の観光地の整備。
- ・ 経済活動の活発化。
- ・ 商店街の活性化。
- ・ 地場の野菜や魚を扱う市場（柳井町商店街などを京都錦市場のイメージで）を普段使いできる商店街が欲しい。
- ・ 都会的で洗練されたまち。
- ・ 表参道のような街は歩いているだけでアートを感じる。ファッションやアートがない街には住みたくない。

##### [交通利便性の向上に関する意見]

- ・ 都会とのアクセス／本州とのアクセスの利便性の充実。
- ・ 飛行機の増便。
- ・ 電車（新幹線等）の利便性が良くなること。
- ・ 松山は車社会のため、バス、電車などのルートが少ない。

##### [生活利便性の向上に関する意見]

- ・ 公共施設の充実。

- ・ アミューズメントパーク／レジャー施設の充実。
- ・ 大規模ショッピングモールの誘致。

#### **[災害対策に関する意見]**

- ・ 災害への備えがあること。
- ・ 津波や台風や集中豪雨などの自然災害に対する安全性。
- ・ 水不足の心配がないこと。

#### **[医療・福祉に関する意見]**

- ・ 医療・福祉の充実。
- ・ 老後の介護や医療が充実していて、安心してらせる街。
- ・ 老人介護に理解があり助け合えるまち。
- ・ 介護がしやすい。
- ・ 高齢者にやさしい。
- ・ 安心して通える病院などが出来たらもっといいと思う。

#### **[現状維持に関する意見]**

- ・ 都会すぎず田舎すぎない今のままの良さを維持して頂きたい。
- ・ 四国一の人口で都市機能もそれなりに充実していて、今のままで十分住みやすい。
- ・ もともと魅力があるまちなので、それがグローバルに認知されれば自然と増えるのでは。